

令和6年10月入学/令和7年4月入学（第1期）
地域創生科学研究科博士前期課程
入学試験問題

社会デザイン科学専攻コミュニティデザイン学プログラム
「コミュニティデザイン学」

試験開始前に以下をよく読んでください。

【注意事項】

1. コミュニティデザイン学プログラムでは、専門科目1科目を課します。
2. 答案は解答用紙を用い、受験番号を記入してください。
3. 外国人留学生特別選抜の受験者は、日本語・母語辞書（電子辞書・翻訳機等は除く）を使用することができます。
4. 試験終了後は、解答用紙及び下書き用紙を全て回収します。試験問題は持ち帰ってください。

令和6年10月入学／令和7年4月入学

地域創生科学研究科博士前期課程入学試験問題

科目名 コミュニティデザイン学	専攻・学位プログラム名 社会デザイン科学専攻 コミュニティデザイン学プログラム
--------------------	---

以下の文章を読んで、問1～3に答えなさい。

我が国の社会保障制度は、ライフステージの各段階において典型的と考えられる不確実性に対し、各リスクの「分野別」に制度を創設し運用してきた。これにより国民生活の安定と安心に大きく寄与してきたことは間違いないが、複合的な要因による課題、分野の境界線上、あるいは制度の狭間にあるため対応が難しい課題が、年々存在感を増している。このような制度の狭間の課題、複雑化・複合化した課題は、その中身は異なるものの、従来から存在するものであった。従来は、地域の紐帯と交流をベースとした助け合いの基盤が残っており、家族や親戚が近場に住んでいることも多く、それらをベースとしたインフォーマルなケアが提供されて対応が行われてきた。公的制度の側も、その根本的な趣旨を損なわない範囲でケアを補完、代替するなど柔軟に運用することで対応してきた。しかし、現在は状況が異なる。これまでのフォーマル又はインフォーマルなケアでは対応が難しい、多様化、複雑化した課題が顕在化している。（令和5年版厚生労働白書から引用）

問1 下線部の課題の具体例について、200字以内で説明しなさい。

問2 これまでの対応を難しくしている、日本の社会状況の変化について、200字以内で説明しなさい。

問3 あなたが計画している研究は、社会の変化や課題に対してどのように貢献できるか、600字以内で論じなさい。

令和7年4月入学（第2期）
地域創生科学研究科博士前期課程
入学試験問題

社会デザイン科学専攻コミュニティデザイン学プログラム
「コミュニティデザイン学」

試験開始前に以下をよく読んでください。

【注意事項】

1. コミュニティデザイン学プログラムでは、専門科目1科目を課します。
2. 答案は別の解答用紙を用い、受験番号を記入してください。
3. 外国人留学生特別選抜の受験者は、日本語・母語辞書（電子辞書・翻訳機等は除く）を使用することができます。
4. 試験終了後は、解答用紙及び下書き用紙を全て回収します。試験問題は持ち帰ってください。

令和7年4月入学（第2期）

地域創生科学研究科博士前期課程入学試験問題

科目名 コミュニティデザイン学	専攻・学位プログラム名 社会デザイン科学専攻 コミュニティデザイン学プログラム
--------------------	---

近年、Well-being に対する関心が高まっており、様々な分野で目にすることが多くなった。例えば、「地方創生 10 年の取組と今後の推進方向」（2024 年 6 月）の結びにおいても、次のような記述がなされている。

「これまで続いてきた我が国の人口減少や東京圏への一極集中の流れを変えることは容易ではなく、地方創生の取組についても望ましい成果が出るまでに時間を要するものがある。そうした中にあっても、人口減少に歯止めをかけ、東京圏への過度な一極集中を是正する目標の実現に向け、諸外国の取組も参考にしながら、我が国全体で戦略的に挑戦するとともに、人口減少下においても、希望を持って住み続けることができる持続可能な地域づくりを進めるため、従来の取組を超える新たな発想に基づく施策を検討・実行していくことで、一人ひとりが多様な幸せ (well-being) を実現する社会を目指すことが重要である。」（内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局・内閣府地方創生推進事務局「地方創生 10 年の取組と今後の推進方向」より抜粋）

【問い】

Well-being が重視されるようになった社会的背景に言及した上で、あなたの研究テーマ、あるいはあなたが関心をもつ地域課題が、Well-being を実現する社会を目指すこととどのように関わるか、1,000 字以内で論じなさい。